

3 歳児健診における耳鼻咽喉科的健診の検討

浅野 尚¹⁾

要約:

3 歳児健康検査に追加されることになった聴覚検査においては滲出性中耳炎を中心とした各種耳疾患を発見するための諸検査を行うとともに、受診者の応じた指導を行い、聴覚障害の早期発見・早期治療に資することを目的とする。この目的に適した健康方法を検討したので報告する。

見出し語: 3 歳児健診、聴覚検査、耳鼻科健診

研究結果:

(1) 実施の方法

実施の方法は地域の実情に即して行われ、健診会場に耳鼻咽喉科が配置される場合、二次健診の場を設定してそこで耳鼻科医が診察に当たる場合等であろう。

各保健所が行う集団健診においては保護者が記入する質問紙を用い、耳鼻咽喉科医が直接診察する必要がある者を選び出す方法を採用する。保健所における健診の結果更に精密な診察が必要な者について精密健診を行う。

精密健診はあらかじめ各実施主体との間で委託契約を結んだ医療機関において行う。

(2) 健診方法

① 質問紙

質問紙は別添のごときものを使用し、保護者に記入させる。質問紙の内容は全項目を含めることが望ましいが、他

科の質問項目との関係で全項目を含めることができない場合でも、最重要項目を含める必要がある。

質問項目に異常を疑わせる答えのあった場合は耳鼻咽喉科医の診察を受けさせる。

② 判定区分及び指導

診査の結果に基づき、次のように区分する。

ア. 異常なしのもの

イ. 既に他で診断確定し、主治医に管理されているもの

ウ. 上記イと同じく診断確定はされているが、放置されているもの
エ. 疾病または異常が今回の健康診査で発見されたもの

オ. 疾病または異常が疑われるもの
カ. 更に精密検査が必要なもの

上記のうち、エ. ウ. については、速やかに医療機関で受診するよう指導する。

1) 浅野耳鼻咽喉科医院 (佐原市)

(3) 耳鼻咽喉科医による診療

その他：奇形その他。

A. 基本的方法

質問紙で滲出性中耳炎、難聴の疑いあるものとして選出されたものについて再度問診で難聴のあるなしを推定したり、日常の外来診療の方法で滲出性中耳炎の有無を診察することを基本とし、それ以上の詳しい検査は医療機関に依頼する。

1) 滲出性中耳炎が重要な目的となるので、本症では鼻、咽頭などの合併症が多いことを考慮し、必ず耳鼻咽喉の診察を前提とする。

2) 問診：難聴の有無を確かめるためには問診が必要である。質問紙で一応のスクリーニングがなされてるが、必ずあらためて詳しく問診をとる。

3) 鼓膜の視診：滲出性中耳炎の鼓膜所見は軽微なことが多いので拡大耳鏡を用いて観察する。外耳道に空気圧を加える可動性検査も役立つ。ファイバースコープの使用は有用である。

B. 補足的方法

可能ならば実施する。

聴力検査：できるだけ静かな部屋で行う。

滲出性中耳炎の診断のためにインピーダンス・オージオメトリー（ティンパノメトリー）は有用である。

C. 診断名

診断名は学校保健の場合に準じ、以下のごとくとする。

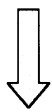
耳：耳垢栓塞。慢性中耳炎。滲出性中耳炎。難聴の疑い。

鼻：副鼻腔炎。アレルギー性鼻炎。

鼻中隔弯曲。慢性鼻炎。

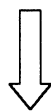
鼻咽腔：アデノイド。鼻咽腔炎。咽頭および喉頭。扁桃炎。扁桃肥大。音声異常。言語異常。

口腔：唇裂。口蓋裂。舌小帯異常。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:3 歳児健康検査に追加されることになった聴覚検査においてはん惨出性中耳炎を中心とした各種耳疾患を発見するための諸検査を行うとともに、受診者の応じた指導を行い、聴覚障害の早期発見・早期治療に資することを目的とする。この目的に適した健康方法を検討したので報告する。